Ⅶ-242　住宅地の街路樹に関する住民意識の研究

大分高専　正会員　亀野　辰三
大分大学工学部　佐藤　誠治
同　上　有馬　隆文

１．はじめに

街路樹は路面状況、壁面の状況と並んで、歩道景観を構成する重要な景観構成要素でありながら、これまで街路樹のみを対象として、利用者サイドからその評価や機能・効果を論じた研究はあまり例を見ないのが現状である。街路樹の効用・不効用を享受するのは住民と通行者であるが、最も日常的に街路樹と接するのは専ら住民であるから、住民意識の把握・分析は不可欠と思われる。そこで、筆者らは典型的な住宅地である造成住宅団地に住む住民を対象として、周辺住民の街路樹に対する意識を把握するための意識調査を実施した。また、これまで定量的な解明が遅れていた街路樹と住居の位置の相違による住民意識の差異の分析や、近年低下傾向が見られる住宅地におけるアンケート調査の回収率をアップするために試みた調査方法等も併せて以下に報告する。

２．研究方法

（１）調査対象地　大分市内の戸数概ね 300 戸以上の住宅団地の内、街路樹として高木が植栽されているすべての住宅団地計19箇所を選定し、各メインストリートに植栽されている街路樹を中心として、一住宅団地につき140世帯、合計2660世帯（戸建て住宅のみ）を住宅地図を用いて抽出し、これらを調査対象世帯とした。なお、抽出された世帯は街路樹と住居との位置関係により、道路と直角方向に「沿道区域：A」、「中間区域：B」、「その他：C」の３区域に分け以下の分析を試みた。

（２）調査方法　本研究では回収率のアップを図るために「郵送訪問調査法」を採用した。この方法は、まず対象世帯宛に調査票を郵送し、指定した期日までに対象者自身に調査票に回答を記入してもらうよう依頼する。その後、指定した期日に調査員が対象世帯を訪問し、調査票を回収する方法である。なお、訪問時に不在の時は返信用封筒を置き、指定した期日までに調査票を返送してもらった。また、アンケートの協力者には調査報告書の送付を約束したり、地元の団地新聞に事前に意識調査の実施記事を掲載してもらうなどの措置を講じた。

（３）調査項目　調査項目は、街路樹構成要素に対する評価、街路樹のメリット・ディメリット、街路樹の剪定、歩道の状況、住宅地のイメージと街路樹の関係等、計20問の中に幾つかの小項目を入れ合計55項目である。なお、調査期間は平成７年８月下旬から９月上旬の約２週間とした。

３．調査結果

（１）回収状況　調査対象2660世帯の内、転居等で調査不能の世帯を除く2474世帯が有効配付先となり、回収数は1709枚、有効回収率は69.1%を示した。住宅団地別では、最高81.0%、最低60.0%であった。

（２）街路樹構成要素に対する評価　ここでは各要素に対する住民の評価を評価点という形で数量化してみた。評価点は、回答枝である「非常に良い」～「全く良くない」の５段階各々に＋2、＋1、０、－1、－2の点数を与え、各要素毎に回答数で除したものである。図-1によると、プラスの側の評価は評価点の高い順から［樹高］［街路樹間隔］［幹の太さ］と続き、逆にマイナス側の評価は、評価点の低い順に［木の香り］［樹種］［樹形］という順である。住居との位置関係では「周辺の環境との調和」と「道路幅員との調和」の二つの要素を除く他の要素は、すべて住居が街路樹から離れるほど評価点は高くなる傾向が見られた。

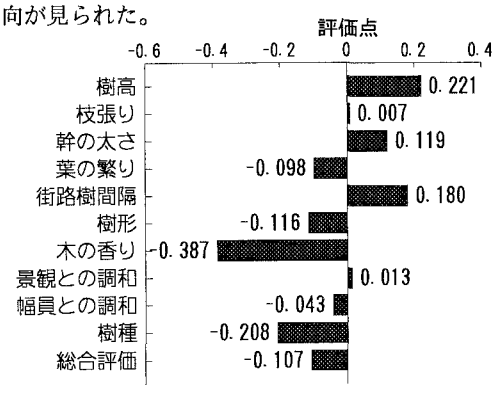

図-1　街路樹構成要素の評価

（３）街路樹のメリット　街路樹のメリットについては図-2に示すように、プラス側の評価、すなわち、メリットがあると感じている項目は、[道路の景観向上][季節感の演出][町のイメージ向上]の三つであった。残りの９項目は評価点がマイナスとなり、特に、[訪問者の目印][延焼防止][騒音緩和]等については、メリットはないと回答している。住居との位置関係では、[立ち話の場の提供][訪問者への目印][野鳥の生息空間]の３項目を除いて、街路樹との距離が離れるほど、メリットが感じられるとする傾向が見られた。（図-3）

（４）街路樹のディメリット　図-4に示す通り、マイナス側の評価項目は、[落ち葉による側溝の詰まり]のみであった。残りの[道路標識や信号機が見えない]等の11項目については街路樹のディメリットとは考えていないようである。住居との位置関係では、ほとんどの項目とも街路樹と離れる世帯ほど、ディメリットとは思っていないことが判明した。（図-5）

４．おわりに

以上の調査結果を要約すると、

〈１〉住宅団地のアンケート調査において回収率のアップを図るには事前のＰＲが必要であり、今回採用した「郵送訪問調査法」及び、解析終了時の調査報告書の送付は、住民と調査機関との信頼関係の構築という点ではかなり有意義な手段と思われる。また、回収時の平均不在率は約70％であった。

〈２〉街路樹の構成要素に対しては、[樹高][街路樹間隔]等には満足しているが、[香り][樹種]等には不満感が高い。また、街路樹のメリットとしては、評価点の大きい順に、[道路の景観向上][季節感の演出][町のイメージ向上]の三つが挙げられ、街路樹が道路の景観向上や町全体のイメージづくりに大きく寄与していることが分かる。一方、街路樹のディメリットとしては、[落ち葉による側溝の詰まり]のみが挙げられた。

〈３〉住居と街路樹の位置による住民意識の差異では、沿道区域の世帯は、街路樹のメリット・ディメリットのいずれも、他の区域と比較して、その影響をより強く受けていることが裏付けられた。

参考文献

1) 長友他：住居系市街地における巨樹に係わる住民意識に関する研究，造園雑誌，56（5），1993

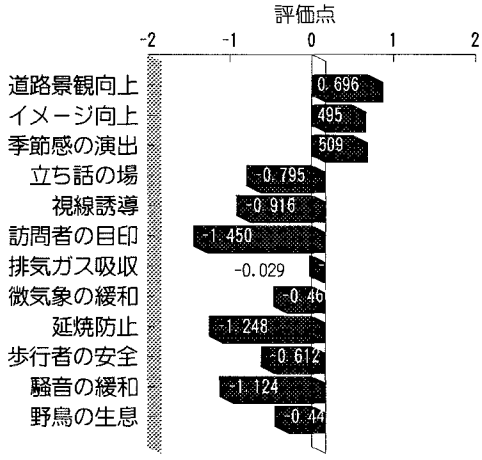

図-2　街路樹のメリット

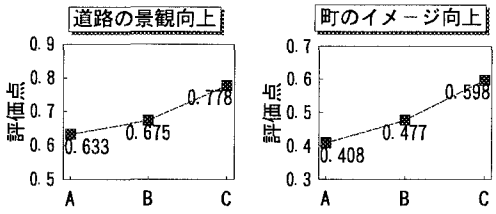

図-3　住居の位置と評価点（メリット）

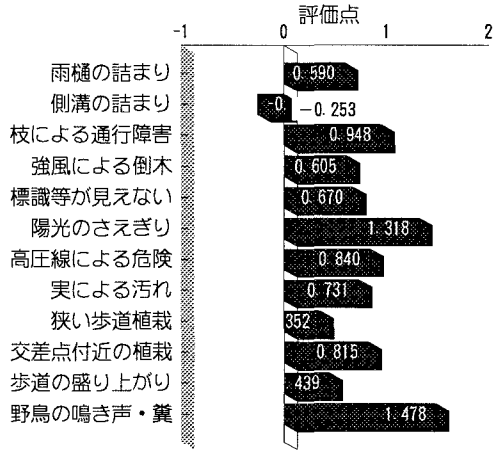

図-4　街路樹のディメリット

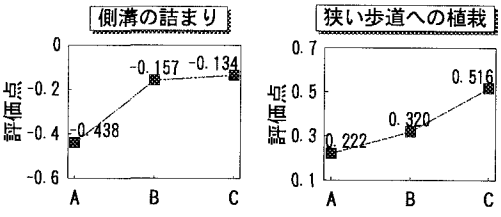

図-5　住居の位置と評価点（ディメリット）